

環境省は7日、全国に33カ所ある国立公園を2016年に訪れた外国人旅行者は推計で前年比11%増の545万7千人だったと発表した。富士箱根伊豆（東京、神奈川、山梨、静岡）が257万7千人で、前年に続き最も多かった。

新千歳空港から訪れやすい支笏洞爺（北海道）が82万7千人、阿蘇くじゅう（熊本、大分）が67万5千人で続いた。政府が目指す20年の1千万人達成はこのままでは難しい状況で、アクセスの比較的悪い公園にどう足を運んでもらうかが今後の課題となる。

国立公園に訪日客 545万人

昨年の全国 首位は富士箱根伊豆

国・地域別では中国からの旅行者が約200万人と最も多く、台湾は約100万人、韓国は約80万人だった。

環境省は昨年7月、受け入れ態勢を重点整備するモデル事業の対象に8カ所の公園を選ぶなど、生態系に影響を与えない範囲で観光スポットとしての利用促進に取り組んでいる。外国人向けツアーの充実やカフェの設置など、環境整備をさらに進めていく方針だ。

国立公園への訪日客数は、観光庁が出国時に行った訪問先アンケートを基に環境省が推計した。